

# 第 36 回日本生理心理学会大会 プログラム



北九州観光サイトより

<http://www.gururich-kitaq.com/>

2018 年 5 月 26 日（土）・27 日（日）

北九州アジア太平洋インポートマート  
（AIM: Asia Import Mart）3 階  
北九州市小倉北区浅野 3-8-1

## 第 36 回日本生理心理学会大会について

第 36 回日本生理心理学会を北九州市で開催させていただくことになりました。今回のテーマは「ぶれない」です。「ぶれない」とは、「一貫している」、「信念を持っている」、「動じず安定している」といった意味だとされています（weblio 辞書）。

これまで多くの生理心理学の研究者の方々とお話をさせていただく機会を持ちましたが、まさに「ぶれない」気持ちで取り組んでおられる研究者の方々ばかりだと思いました。ある方は、1つの方法論にこだわり、そのための測定機器を開発し実験を行っておられます。またある方は、これまで一貫して、ある心理過程を明らかにしたくて、そこにさまざまな方法論を試しておられます。さらに、これまで調べてきた基礎研究による成果を実社会に何とか応用できないかと取り組んでおられる方もいらっしゃいます。このように「ぶれずに」研究に取り組んでいる研究者の方々とお会いすると、一方から見るとぶれているように見えても、そこには首尾一貫したお考えがあることがわかります。心理学とは、「人間とは何か」について考える学問です。生理心理学では、そのことについて身体や脳の機能を通して考えていきます。手近な機器から高度な機器までを駆使して生理指標の測定に取り組み、心理過程の解明に取り組んでおられる研究者もいらっしゃれば、小動物の脳構造や機能を調べる研究者もいらっしゃいます。このような研究に対するぶれない姿勢には頭が下がるばかりです。

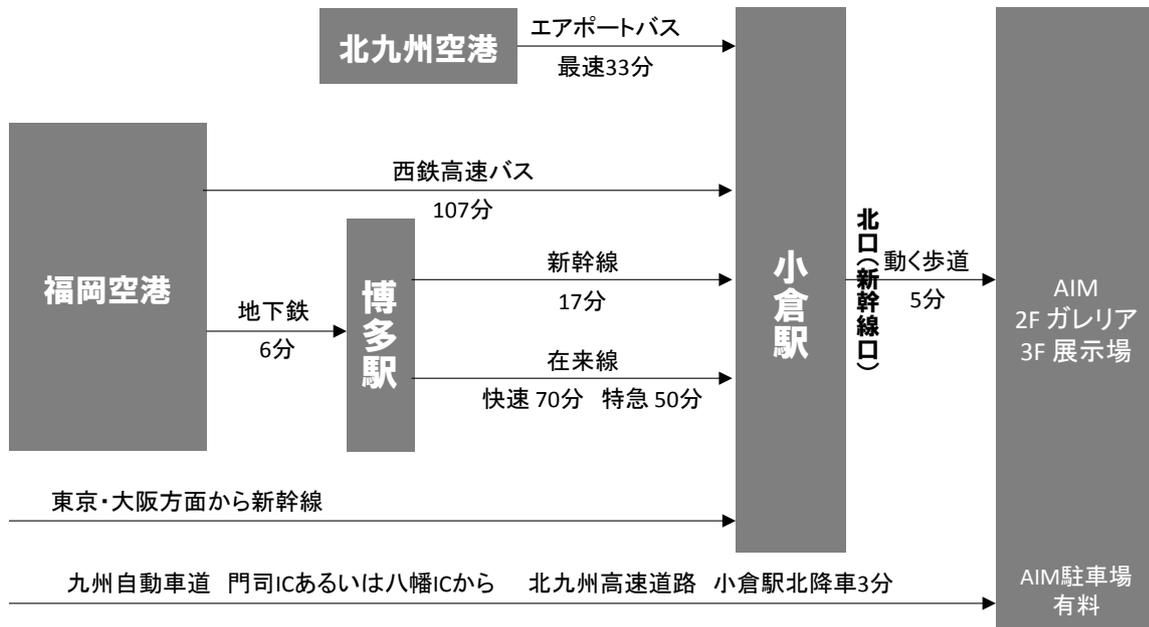
今回の大会は、ポスター発表、特別講演、2つのシンポジウムから構成されています。特別講演では、身近なまばたき（瞬目）を生理指標として、その発生タイミングに注目して研究しておられる大阪大学大学院生命機能研究科・医学研究科准教授の中野珠実先生にお話しいただきます。中野先生は、瞬目を通して脳活動の交替や自律神経活動との関連だけでなく、コミュニケーション障害との関連にも言及しておられます。大会企画シンポジウムでは、「時間」について脳内機構、行動経済学、さらには細胞内にある時間遺伝子の働き方といった側面から議論を深めていただきます。公募シンポジウムでは、脳波、脳磁図、自律神経活動といった基礎的な生理データがどのように実社会に応用できるのかについて議論していただきます。

今回の大会では、基礎から応用まで多種多様な研究者が参加し、それまで「ぶれずに」取り組んでこられた研究成果を発表されることになると思います。講演・シンポジウム会場やポスターの前では活発な議論が行われることを楽しみにし、みなさん方の研究がさらに発展されることをお祈り申し上げます。

大会会場の AIM（アジア太平洋インポートマート）は、JR 小倉駅新幹線口（北口）から動く歩道に乗って 5 分のところですが、雨に濡れずに会場に着くことができます。スタッフ一同、みなさまのご参加をお待ち申し上げます。

第 36 回日本生理心理学会大会準備委員会  
委員長 福田 恭介

大会会場(AIM: Asia Import Mart)3階へのアクセス  
北九州市小倉北区浅野 3-8-1



#### 北九州空港をご利用の場合

東京からの始発便到着予定時刻は 8:00、最終便到着予定時刻は 24:35 (4月現在) です。北九州空港から JR 小倉駅まではエアポートバスが安くて便利です (700 円、最速 33 分、交通系 IC カード利用可)。エアポートバスは、JR 小倉駅の小倉城口 (南口) に到着します。会場 (AIM) につながる北口には、2 階に上がって駅構内をお進みください。詳しくは、以下のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.kitakyu-air.jp/>

#### 福岡空港をご利用の場合

東京からの始発便到着予定時刻は 8:15、最終便到着予定時刻は 21:55 です。空港から地下鉄で JR 博多駅まで約 6 分、JR 博多駅から JR 小倉駅までは、JR 在来線快速で約 70 分、特急で約 50 分、JR 新幹線で約 17 分です。

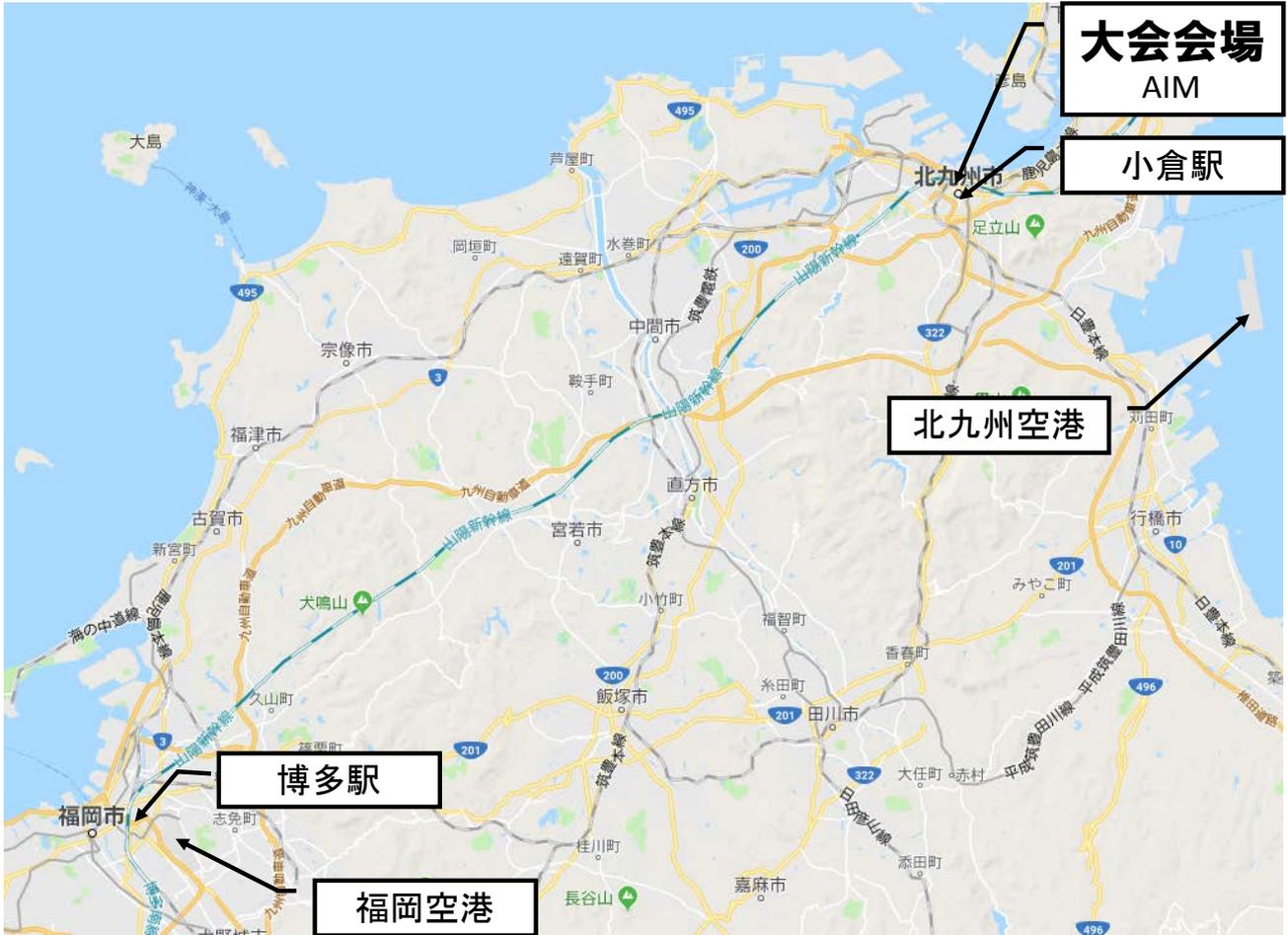
#### JR・新幹線をご利用の場合

小倉駅で降りられた後、小倉駅新幹線口 (北口) からペDESTリアンデッキを歩いて徒歩約 5 分です。

#### 乗用車をご利用の場合

熊本・福岡方面からは九州自動車道・八幡 IC から北九州都市高速道路に乗り、小倉駅北ランプで降りて約 3 分で左側にあります。東京・大阪・広島方面からは九州自動車道・門司 IC から北九州都市高速道路に乗り、小倉駅北ランプで降りて約 3 分で左側にあります。詳しくは、以下のウェブサイトをご覧ください。

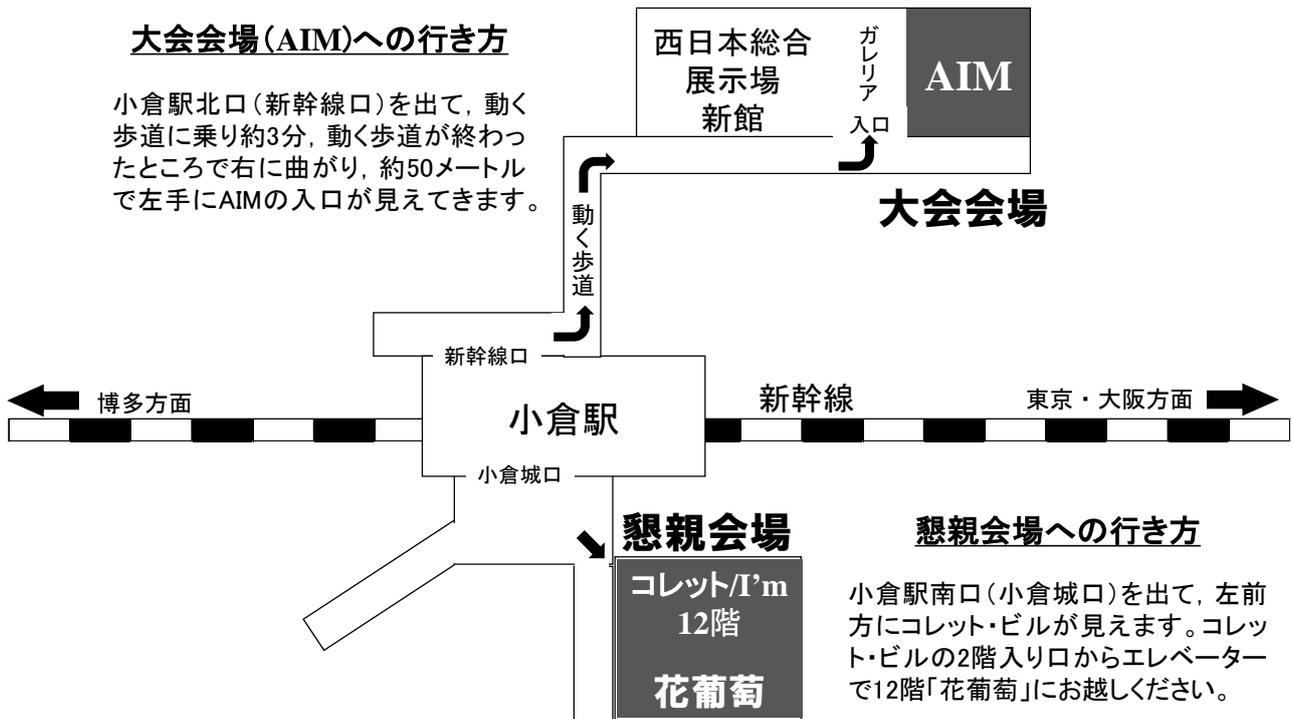
<http://www.aim-kiopro.co.jp/access/>



Google

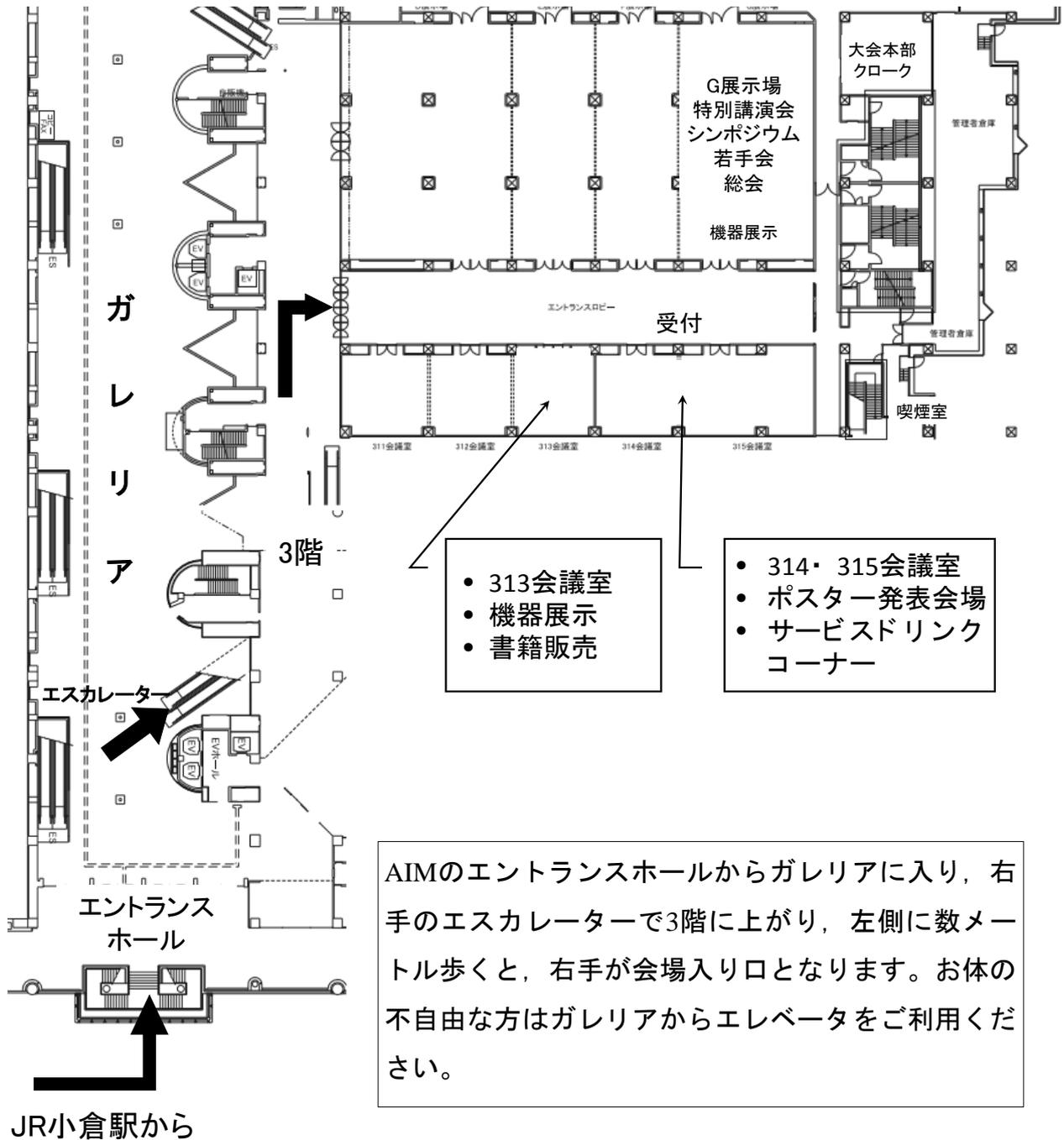
### 大会会場(AIM)への行き方

小倉駅北口(新幹線口)を出て、動く歩道に乗り約3分、動く歩道が終わったところで右に曲がり、約50メートルで左手にAIMの入口が見えてきます。

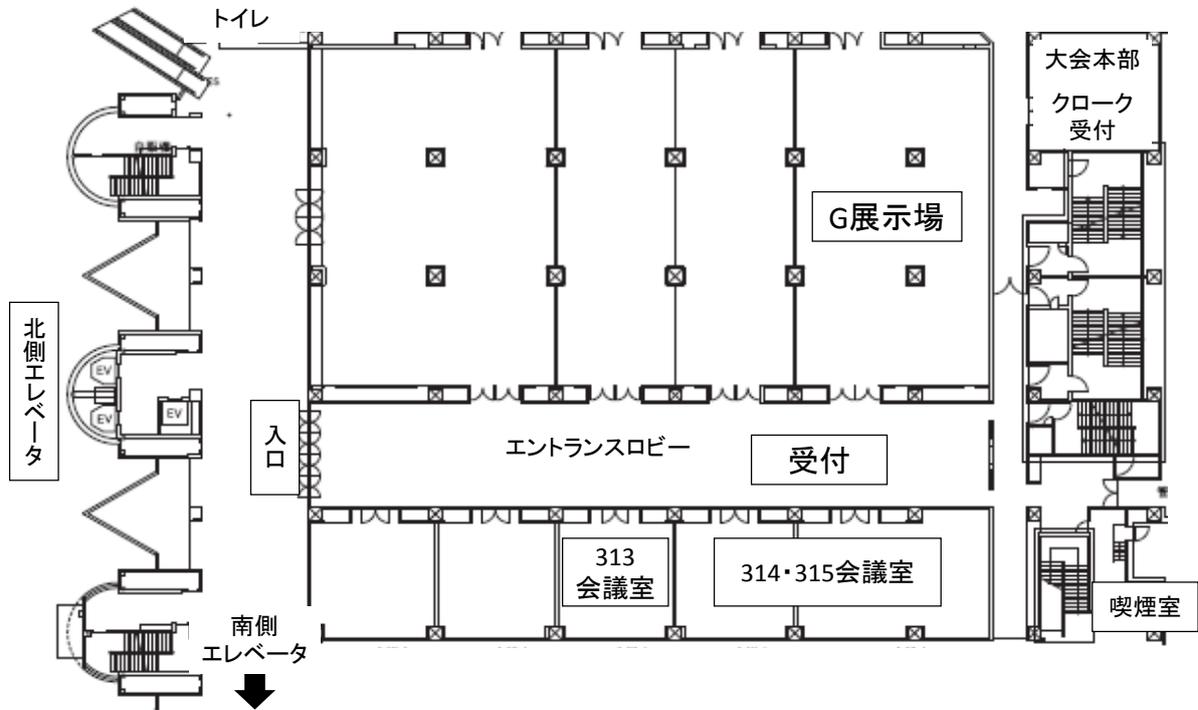


大会会場 (AIM) 周辺の地図

## 会場案内図 1 (AIM 2 階から 3 階へ)



## 会場案内図 2 (AIM 3 階)



## 会場一覧

大会受付	AIM 3 階	エントランスロビー
クローク・大会本部	AIM 3 階	エントランスロビー奥左
講演・シンポジウム・若手会・総会	AIM 3 階	G 展示場
ポスター発表・サービスドリンクコーナー	AIM 3 階	314・315 会議室
機器展示・書籍販売	AIM 3 階	313 会議室, G 展示場内
談話のための休憩場所	AIM 2 階	フードコート
	AIM 6 階	ルーフデッキ
	AIM 7 階・8 階	リフレッシュコーナー
喫煙室	AIM 3 階	エントランスロビー奥右
評議員会	AIM 8 階	KIPRO ホール 南側エレベータを 8 階で降りて右側
編集委員会・理事会	西日本総合展示場新館 3 階	305 会議室 (委員の方には別途ご案内します)
懇親会場	コレット/I'm 12 階	「花葡萄」 (JR 小倉駅・小倉城口すぐ)

# 大会プログラム

2018年5月25日(金)～5月27日(日)

		9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	
2018年 5月25日	金							編集 委員会 (西日本総合展 示場新館3階 305会議室)	理事会 (西日本総合展示場 新館3階305会議室)			
2018年 5月26日	土	受付開始	9:45 ポスター発表 I (314・315会議室)	11:45	12:00 評議員会 (AIM 8階 KIPROホール) 若手会 (G展示場)	13:00	13:15 公募シンポジウム I (G展示場)	15:15	15:30 特別講演 (G展示場)	17:15	18:00 懇親会 コレット / 1m 12階 「花葡萄」	20:00
2018年 5月27日	日	受付開始	大会企画シンポジウム II (G展示場)		総会 (G展示場)		ポスター発表 II (314・315会議室)					

## 大会参加者へのご案内

### 1. 受付

大会受付は、両日ともに9:00よりAIM3階エントランスロビーにて行います。参加者は必ず手続きを済ませてください。受付で参加証（裏面に領収書）をお渡しいたしますので、所定欄に氏名と所属を記入し、大会期間中、会場内では参加証をつけてください。

### 2. 大会参加費

正会員の当日支払い、および非会員の参加費は6,000円です。学部学生（受付時に学生証を提示してください）の参加費は1,000円です。なお、正会員で予約前納（5,000円）されている方につきましては、当日の支払いは不要ですが、受付で参加証の受け取りをお願いいたします。

### 3. クローク

クロークは、エントランスロビー奥を左に曲がったところに設けます。第1日目は9:00より17:45、第2日目は9:00より16:00までご利用いただけます。お荷物を預けられるときには、預かり票にご自分の携帯電話番号をご記入ください。

### 4. 機器展示・書籍販売

AIM3階313会議室およびG展示場内において、機器の展示及び書籍の販売を行います。

### 5. 懇親会

大会1日目18:00より、小倉駅小倉城口より南に出てすぐ左側にあるコレット（百貨店）1mの12階にあるレストラン「花葡萄」で開催します。人数にまだ余裕がありますので、事前申し込みされなかった方で参加ご希望の方は、大会受付にて懇親会費6,000円を添えてお申し込みください。

### 6. 談話のための休憩場所

ポスター会場にもフリー・ドリンクコーナーを設けますが、AIM2階フードコート、AIM7階、8階にあるリフレッシュコーナーおよびAIM6階にあるルーフデッキをご利用になれます。

### 7. 学会関連諸会議

編集委員会、理事会、評議員会、総会については大会日程やプログラムをご覧ください。

編集委員会、理事会の会場については、別途ご案内します。

## 8. 若手会

大会初日の昼の時間帯に AIM3 階 G 展示場において、大会初発表の修士課程の学生さん (M1 と M2) による「Data Blitz (1 人 1 分の制限時間での自己紹介および研究紹介)」が行われます。修士課程の学生の皆様は是非ご参加ください。第 35 回大会では、該当者のほぼ全員にあたる 12 名が参加し大盛況でした。参加者は全員生理心理学会の若手です。Data Blitz の後に若手同士の懇親のひと時も持ちます。Data Blitz へのご参加とお弁当をご希望される方は下記の E メールアドレスまでお申し込み下さい。予約がない場合は昼食をご持参下さい。奮ってのご参加よろしく願いいたします。お問い合わせは、ogawakeicom(at)hiroshima-u.ac.jp (若手 WG 代表小川景子先生) までお願いいたします。

## 9. 昼食

飲食店は、AIM 内 2 階のフードコートにもありますが、JR 小倉駅まで徒歩 5 分の距離ですので、駅ビル内でのご利用もできます。

- ・ アミュプラザ 6 階 (駅構内の西側のビル) <https://www.amuplaza.jp/restaurant/>
- ・ 小倉エキナカひまわりプラザ (JR 小倉駅北口を入ってすぐの西側)  
<http://www.kokurahimawari.com/>
- ・ ステーションホテル (JR 小倉駅構内東側) <http://www.station-hotel.com/restaurant/>

## 10. AIM 内での飲食と喫煙について

AIM 内で飲食なさる場合は、6 階、7 階、8 階のリフレッシュコーナーをご利用ください。AIM 内 2 階にもフードコートがあります。喫煙室は、AIM3 階エントランスロビー奥を突き当たった右側に設けられています。

## 11. 会場内でのインターネット利用について

Wi-Fi 設備はありません。あしからずご了承ください。

## 12. 掲示板

AIM3 階エントランスロビーの大会受付付近に掲示板を用意します。連絡用にご利用ください。大会本部からのお知らせもありますので、ご確認をお願いいたします。

## 13. 駐車場

AIM には地下駐車場があります。駐車料金は、30 分 150 円です。詳しくは、以下の URL をご覧ください。

<http://www.aim-kipro.co.jp/parking/>

## 14. 大会期間中の連絡

大会期間中の連絡電話番号は、093-541-8492 (大会本部) です。緊急の要件の場合のみご利用ください。

## 発表者へのご案内

### 1. ポスターの貼り方および文字の大きさ

ポスター掲示用のパネルは、高さ 210cm、幅 90cm の大きさです。ポスターの最上段に、発表題目と発表者全員の氏名および所属を示してください。連名発表の場合、主発表者の氏名の前に○印をつけてください。文字の大きさは指定しませんが、ポスターから 2m の距離でも読める程度の文字を目安にしてください。掲示用の画鋲は、会場準備いたします

### 2. ポスター掲示時間

ポスター発表会場は 314, 315 会議室です。ご自身の演題番号のついたパネルに発表時間までに掲示してください。ポスターは両日ともに 9:00 から掲示可能です。1 日目, 2 日目ともに 16:00 までにポスターの撤去をお願いします。16:00 までに撤去されなかったポスターは大会本部で処分いたしますので、ご了承ください。

主発表者の在席責任時間は以下の通りです。在席責任時間中に主発表者の出欠を確認いたします。

ポスター番号末尾の アルファベット	期 日	在席時間
a	5 月 26 日 (土)	9:45 ~ 10:45
b	5 月 26 日 (土)	10:45 ~ 11:45
c	5 月 27 日 (日)	13:15 ~ 14:15
d	5 月 27 日 (日)	14:15 ~ 15:15

### 3. 発表取り消し

主発表者が欠席された場合は、発表取消とみなします。ただし、連名発表の場合、大会長の承認を得て、連名発表者を主発表者に変更することができます。主発表者の欠席や変更は、大会前日までに大会事務局にメールにてご連絡ください。大会期間中は、ポスター発表会場受付にご連絡ください。

### 4. 学会誌掲載用原稿の提出

ポスター発表の主発表者は、書式に従って発表抄録原稿を作成し、Microsoft Word 形式で保存したファイルをメール添付にて、5 月 25 日 (金) までに編集委員会事務局 (jspped@hiroshima-u.ac.jp) まで提出してください。保存する際のファイル名は「演題番号, 主発表者」(例 P-85a・北九福太郎) にしてください。発表抄録原稿のテンプレートは、大会 HP の下記の URL よりダウンロードできます。

<http://www.fukuoka-pu.ac.jp/~jspp2018/entry.html#011>

## 5. 発表資格

### (1) 主発表者について

主発表者は、日本生理心理学会正会員とします。大会期間中に主発表者になれるのは、1会員1回限りです。正会員は、主発表者及び連名発表者のいずれにもなることができます。ただし、シンポジウムでの発表者はこの限りではありません。

### (2) 非会員連名発表者について

非会員でも連名発表者になることができます。非会員連名発表者登録料は不要です。非会員は、シンポジウムに関しては登壇者になることも可能です。

## 6. 入会

現在未入会の方の入会手続きについて、ご不明な点は日本生理心理学会事務局へお問合せください。

日本生理心理学会事務局ホームページ

<http://www.seirishinri.com/guidance/enrollment.html>

ご不明な点は、日本生理心理学会事務局へお問合せください。

E-Mail : [seirishinri-post@bunken.co.jp](mailto:seirishinri-post@bunken.co.jp)

## 日本生理心理学会大会抄録原稿作成要領 —2018年度版—

○主発表者 姓 名 (△△大学□□研究科)  
連名発表者 姓 名 (所属)

本学会の学術大会の折に提出していただく発表抄録は、学会誌“生理心理学と精神生理学”に掲載されます。抄録原稿は、以下に述べる要領にしたがって作成し、word形式のまま（あるいはword形式とpdfの両方を）編集事務局（jssped@hiroshima-u.ac.jp）宛にメールで送ってください。ファイル名は“演題番号・主発表者”としてください。

### 抄録の構成

科学論文の要件を満たすように、研究の目的、方法、結果、考察などの項目に分けて記述してください。一連発表の場合にも、それぞれの発表が完結した論文であることが必要です。書き方は“心理学研究”の執筆・投稿の手引きに準じます。ただし、著者が3名以上の場合の文献の引用の仕方は異なります。

### 用紙と書式

Microsoft Word を使用して、A4 用紙 1 ページで作成してください。24 字×42 行×2 段とします。余白は上下を 30 mm、左右を 20 mm とってください。

**題目** MS ゴシック 10 pt, 中央寄せ。副題がある場合は、前後に“—: 全角ダッシュ”をつけます。

**発表者名** MS 明朝 10 pt, 左寄せ。姓と名の間に全角スペースを入れ、主発表者の氏名の前に○印をつけてください（連名発表者がいない場合も）。

**所属** MS 明朝 8 pt, 氏名の横にスペースを入れずに書き、“( ): 全角丸かっこ”で囲みます。所属が大学の場合には学部、研究科等まで記入してください。連名の場合、発表者の所属が同一の時には一つだけ記入します。連名者が多数の時でも、所属は省略せず、正式な名称で記述してください。所属が複数ある場合には、“,: 全角カンマ”で区切ってください。

**見出し** MS ゴシック 10 pt, “方法”, “結果”, “考察”は横大見出し（左寄せ、本文は改行して始める）, “実験参加者”などは横小見出し（左端を 1 字あけ、本文は 1 字あけて続ける）, “引用文献”や複数の実験を報告する場合の“実験 1”などは中央大見出しとします。

**本文** 日本語は MS 明朝, 英数字は Times New Roman の 10 pt を使用してください。発表者名・所属の行から

1 行あけて始め、段落の最初は 1 字下げてください。句読点は“,: 全角カンマ”と“.: 全角マル”を用います。英数字は全て半角とします。

**記号など** 統計量を表す記号 ( $M, SD, t, F, p, df$  など) は、ギリシア文字を除いて斜体にします。例や説明を書く場合にはコロン (:) を用います。セミコロン (;) は、検定結果を列挙する場合および括弧内に引用文献を列挙する場合のみに使ってください。括弧は、原則として 2 重括弧の場合も含め ( ) を使用します。下線・傍点は、原則として使用しないでください。数式記号のうち、“=: 半角等号”, “<: 半角不等号”の前後, “,: 半角カンマ”の後には、半角スペースを入れてください。量を表す数字と単位の間には、半角スペースを入れます。

**図表** 図と表を合わせた面積が全体の 1/3 を超えないようにしてください。図表には、番号とタイトルを必ず記入してください。写真の掲載はできません。カラー印刷はできませんので、Figure 1 のようにグレースケール化してください。また、Table 1 に本文での文献の引用の仕方を示します。



Figure 1. カラー図版のグレースケール化

Table 1. 本文での文献の引用の仕方

著者数	文章として入れる場合	括弧内に示す場合
1 名	著者 (出版年) は… Author (Year) は…	…である (著者, 出版年)。 …である (Author, Year)。
2 名	著者・著者 (出版年) は… Author & Author (Year) は…	…である (著者・著者, 出版年)。 …である ( Author & Author, Year)。
3 名以上	著者ら (出版年) は… Author et al. (Year) は…	… (著者ら, 出版年)。 … (Author et al., Year)。

### 引用文献

引用文献は、最後に一括して示します。表記が 2 行以上にわたる場合には、2 行目以降を全角 2 文字分下げてください。著者の姓のアルファベット順に並べ、著者が全く同じ場合には、出版年順に並べます。

(脚注・謝辞など MS 明朝 8pt 左寄せ。本文の最後に書いて、“( ): 全角丸かっこ”で囲んでください。)

プログラム

## 講演及びシンポジウム (AIM 3 階 G 展示場)

-----大会 1 日目 5 月 26 日 (土) -----

公募シンポジウム 「生理心理学を実社会で活かすには—生理指標を用いた心理・行動の評価—」・・ 13:15～15:15

企画・司会： 小川景子 広島大学大学院総合科学研究科  
木村健太 産業技術総合研究所  
若手 WG 玉越勢治 帝塚山学院大学人間科学部  
森本文人 仁愛大学人間学部

話題提供： 杉本史恵 産業技術総合研究所  
森 数馬 脳情報通信融合研究センター  
古居 彬 広島大学大学院工学研究科  
松村健太 富山大学大学院医学薬学研究部

指定討論： 入戸野 宏 大阪大学大学院人間科学研究科

特別講演「なぜ我々は瞬きをするのか？」・・ 15:30～17:15

講演： 中野珠実 大阪大学大学院生命機能研究科・医学研究科

司会： 福田恭介 福岡県立大学人間社会学部

-----大会 2 日目 5 月 27 日 (日) -----

大会企画シンポジウム「時間について考える」・・ 09:45～11:45

企画・司会： 麦島 剛 福岡県立大学人間社会学部

話題提供： 恒松 伸 立命館大学衣笠総合研究機構  
坂田省吾 広島大学大学院総合科学研究科  
柴田重信 早稲田大学理工学術院

## 諸会議

-----大会前日 5月25日(金)-----

編集委員会 (西日本総合展示場新館3階305会議室) . . . . . 15:00~16:00

理事会 (西日本総合展示場新館3階305会議室) . . . . . 16:00~17:30

-----大会1日目 5月26日(土)-----

評議委員会 (AIM8階KIPROホール) . . . . . 12:00~13:00

若手会 (AIM3階G展示場) . . . . . 12:00~13:00

懇親会 (コレット/1m12階「花葡萄」) . . . . . 18:00~20:00

-----大会2日目 5月27日(日)-----

総会 (AIM3階G展示場) . . . . . 12:00~13:00

## ポスター発表 (314・315 会議室)

2018年5月26日(土) 9:45~11:45

2018年5月27日(日) 13:15~15:15

### 在席責任時間

ポスター番号末尾のアルファベットが	a: 26日(土)	9:45~10:45
	b: 26日(土)	10:45~11:45
	c: 27日(日)	13:15~14:15
	d: 27日(日)	14:15~15:15

5月26日(土) 9:45~11:45

### P-01a

#### 緊張時に皮膚から特徴的に発生する匂い成分

○勝山雅子<sup>1</sup> 草場健太郎<sup>1</sup> 中島優哉<sup>1</sup> 成田智美<sup>1</sup> 落合正敏<sup>1</sup>  
瓦谷明宏<sup>2</sup> 桑原裕香理<sup>2</sup> 石川貴大<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>資生堂グローバルイノベーションセンター) (<sup>2</sup>高砂香料工業会社)

### P-02b

#### Visual mismatch negativity と Representational momentum は同一の予測プロセスに関係している

木村元洋

(産業技術総合研究所)

### P-03a

#### 音楽聴取によって生じる鳥肌感および涙感に関する研究

○高原 円 佐藤耕平

(福島大学共生システム理工学類)

5月26日(土)

9:45~11:45

**P-04b**

**先行する顔文字の表情は続く顔刺激の処理に影響を及ぼすか**

○吉田勇太<sup>1</sup> 小西賢三<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>吉備国際大学大学院心理学研究科) (<sup>2</sup>吉備国際大学心理学部)

**P-05a**

**他者の視線がターゲットに対する好意度に及ぼす影響**

○橋本由里<sup>1</sup> 片山 優<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>島根県立大学看護学部) (<sup>2</sup>松江工業高等専門学校電気情報工学科)

**P-06b**

**背側海馬内 muscimol 投与が時程の記憶形成に与える効果**

○畑 敏道<sup>1</sup> 山下達也<sup>1</sup> 鎌田泰輔<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>同志社大学心理学部) (<sup>2</sup>同志社大学大学院心理学研究科)

**P-07a**

**将来の職業への意識が対人距離に及ぼす影響**

○加藤みわ子<sup>1</sup> 伊藤康宏<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>広島都市学園大学健康科学部) (<sup>2</sup>藤田保健衛生大学医療科学部)

**P-08b**

**楽観性・悲観性および精神生理学的指標の反応性と回復性**

本多麻子

(東京成徳大学応用心理学部)

**P-09a**

**ハイレゾ音源は聞き分けられるか？ ミスマッチ陰性電位による検討**

入野 宏

(大阪大学大学院人間科学研究科)

5月26日(土)

9:45~11:45

**P-10b**

**情緒的メッセージは社会的排斥に対する予測を妨害するのか？ -ERPを指標とした実験的検討-**

○山縣豊樹<sup>1</sup> 片山順一<sup>2</sup> 村田明日香<sup>3</sup>

(<sup>1</sup>北海道大学大学院文学研究科)

(<sup>2</sup>関西学院大学文学部・応用心理科学研究センター)

(<sup>3</sup>北海道大学社会科学実験研究センター)

**P-11a**

**入眠状態における脳波パワ活動の tap-by-tap 分析**

○平野晋吾 広重佳治

(福山市立大学教育学部)

**P-12b**

**無関連プローブ法を用いた注意資源配分量の評価 —聴覚プローブ刺激呈示の時間的パラメータの検討—**

○杉本史恵 木村元洋 武田裕司

(産業技術総合研究所)

**P-13a**

**隠匿情報検査の呼吸記録をローレンツプロットで表示する試み**

坂東英輔

(埼玉県警察本部刑事部科学捜査研究所)

**P-14b**

**自閉スペクトラム症の事象関連性コヒーレンスの予備的検討(3) -多変量自己回帰モデルによる有向伝達関数・偏有向コヒーレンスのシミュレーション-**

○高橋由子<sup>1</sup> 寺田信一<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>高知大学大学院) (<sup>2</sup>高知大学教育学部門)

5月26日(土)

9:45~11:45

**P-15a**

**フィードバック関連電位に対する主成分分析の適用**

○平尾貴大<sup>1</sup> 丸尾祐矢<sup>2</sup> 正木宏明<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>早稲田大学スポーツ科学学術院) (<sup>2</sup>東京女子体育大学体育学部)

**P-16b**

**身体へ接近する視覚刺激による体性感覚事象の予測における要因間の相互作用**

○木村 司<sup>1</sup> 片山順一<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>関西学院大学大学院文学研究科) (<sup>2</sup>関西学院大学文学部)

**P-17a**

**タッピング課題による内受容感覚の評価と感情喚起スライド呈示時の感情反応の検討**

○櫻井優太<sup>1</sup> 清水 遵<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>愛知淑徳大学心理学部)

**P-18b**

**事象関連同期/脱同期を用いた情動推定に関する研究**

○吉田大樹<sup>1</sup> 金 堯奎<sup>2</sup> 黒瀬亮成<sup>1</sup> 林 小百合<sup>1</sup> 池田悠稀<sup>1</sup>

樋口重和<sup>2</sup> 元村祐貴<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>九州大学大学院統合新領域学府) (<sup>2</sup>九州大学大学院芸術工学研究院)

**P-19a**

**呼吸運動と心拍数を用いた嚙下検出**

○山本直宏<sup>1</sup> 奥野拓弘<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>山形県警察本部科学捜査研究所) (<sup>2</sup>三重県警察本部科学捜査研究所)

5月26日(土)

9:45~11:45

**P-20b**

**虚記憶に関する警告が虚記憶生起過程に与える影響 —事象関連脳電位を用いた検討—**

○高橋梨紗<sup>1</sup> 伏田幸平<sup>1</sup> 片山順一<sup>2</sup>

(<sup>1</sup> 関西学院大学文学研究科) (<sup>2</sup> 関西学院大学文学部)

**P-21a**

**バーチャルリアリティゲーム中の呼吸曲線長の変化**

○中山 誠<sup>1</sup> 李 韓碩<sup>2</sup>

(<sup>1</sup> 関西国際大学人間心理学科) (<sup>2</sup> 関西国際大学大学院人間行動学研究科)

**P-22b**

**単語から連想される色によるストロープ効果の検討**

○岡部聡美<sup>1</sup> 佐藤 栞<sup>2</sup> 小川景子<sup>1,2</sup>

(<sup>1</sup> 広島大学総合科学研究科) (<sup>2</sup> 広島大学総合科学部)

**P-23a**

**模倣抑制課題による脳内ミラーシステム活動変化とその個人差についての検討**

○西村悠貴<sup>1,2</sup> 池田悠稀<sup>1,2</sup> 林 小百合<sup>1,2</sup> 元村祐貴<sup>3</sup> 樋口重和<sup>3</sup>

(<sup>1</sup> 九州大学大学院統合新領域学府) (<sup>2</sup> 日本学術振興会特別研究員 DC)

(<sup>3</sup> 九州大学大学院芸術工学研究院)

**P-24b**

**疑いの心的構えが嘘発言時と認知時の腹外側前頭前野活動に及ぼす影響**

○岸 靖亮<sup>1</sup> 後藤広太郎<sup>2</sup>

(<sup>1</sup> 近畿大学豊岡短期大学) (<sup>2</sup> 東京農業大学生物産業学部)

5月26日(土)

9:45~11:45

**P-25a**

**剣道審判員の注意と視線行動**

○星野聡子<sup>1</sup> 大東実里<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>奈良女子大学生生活環境学部心身健康学科)

(<sup>2</sup>奈良女子大学大学院人間文化研究科)

**P-26b**

**Snoezelen 環境の効果をもたらす認知メカニズムの検討**

○橋本 翠<sup>1</sup> 吉田勇太<sup>2</sup> 小西賢三<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>広島文化学園大学看護学部) (<sup>2</sup>吉備国際大学大学院心理学研究科)

**P-27a**

**伝達意図を持つ「指さし」行為の遂行時及び観察時における Mu リズム抑制**

○杉野信太郎<sup>1</sup> 日高茂暢<sup>2</sup> 田中見太郎<sup>2</sup> 諸富 隆<sup>3</sup>

(<sup>1</sup>福島県警察科学捜査研究所) (<sup>2</sup>作新学院大学) (<sup>3</sup>北海道大学)

**P-28b**

**隠蔽対象の状態と隠匿情報検査の弁別的反応の関係**

○大塚拓朗<sup>1,2</sup> 片山順一<sup>3</sup>

(<sup>1</sup>兵庫県警科学捜査研究所) (<sup>2</sup>関西学院大学大学院文学研究科)

(<sup>3</sup>関西学院大学文学部)

**P-29a**

**視覚的な N-back 課題が刺激評価段階に及ぼす影響**

○大久保 瞳<sup>1</sup> 高井秀明<sup>1</sup> 坂部崇政<sup>2</sup> 浦 佑大<sup>2</sup> 岩崎宏次<sup>2</sup>

永野遼平<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>日本体育大学) (<sup>2</sup>日本体育大学大学院)

5月26日(土)

9:45~11:45

**P-30b**

**顕著性および行動適応に関する前部島皮質の機能的左右差**

○小谷泰則<sup>1</sup> 大上淑美<sup>1</sup> 吉田宜清<sup>2</sup> 國松 聡<sup>2</sup> 桐生 茂<sup>3</sup>  
井上 優介<sup>4</sup>

(<sup>1</sup>東京工業大学リベラルアーツ研究教育院) (<sup>2</sup>東京大学医科学研究所)

(<sup>3</sup>国際医療福祉大学医学部) (<sup>4</sup>北里大学医学部)

**P-31a**

**刺激の購買頻度による Go/Nogo 課題遂行時の事象関連電位の変化**

○辻 幸樹<sup>1,2</sup> 柴田みどり<sup>3</sup> 寺澤悠理<sup>4</sup> 梅田 聡<sup>4</sup>

(<sup>1</sup>慶應義塾大学社会学研究科) (<sup>2</sup>日本学術振興会特別研究員)

(<sup>3</sup>慶應義塾大学先導研究センター) (<sup>4</sup>慶應義塾大学文学部)

**P-32b**

**眼球運動を用いた隠匿情報検査 裁決質問の呈示頻度が検出に及ぼす影響**

○小野洋平 石岡綾香 軽部幸浩 谷口泰富

(駒澤大学文学部)

**P-33a**

**刺激色と輝度を用いたラムダ反応(P1, P2)の発生機序に関する検討**

○本多千紗<sup>1</sup> 仲泊 聡<sup>2</sup> 宮内 哲<sup>3</sup> 古田 歩<sup>4</sup> 小川景子<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>広島大学大学院総合科学研究科) (<sup>2</sup>理化学研究所)

(<sup>3</sup>情報通信研究機構) (<sup>4</sup>前田眼科)

**P-34b**

**模擬テロ攻撃シナリオによる事象関連電位を指標とした隠匿情報検査**

○平 伸二<sup>1</sup> 植田善博<sup>2</sup> 濱本有希<sup>3</sup> 古満伊里<sup>4</sup>

(<sup>1</sup>福山大学人間文化学部) (<sup>2</sup>福山大学大学院人間科学研究科)

(<sup>3</sup>静岡県警察本部刑事部科学捜査研究所) (<sup>4</sup>広島修道大学健康科学部)

5月26日(土)

9:45~11:45

**P-35a**

**報酬や罰の生じる頻度(saliency)が成果の予期に及ぼす影響について**

○亀井誠生<sup>1</sup> 佐久間春夫<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>立命館大学スポーツ健康科学研究科)

(<sup>2</sup>立命館大学スポーツ健康科学部)

**P-36b**

**ダブルプルキンエ法を用いた頭部非固定条件下での水晶体調節検出**

○則長竜弥 早見武人

(岡山大学大学院自然科学研究科)

**P-37a**

**においては抑制・情報処理パフォーマンスに影響するのか**

○軍司真究<sup>1</sup> 桑垣彩乃<sup>2</sup> 後藤広太郎<sup>3</sup> 戸枝一喜<sup>1</sup>

(東京農業大学生物産業学部; <sup>1</sup>食品香粧化学科 <sup>2</sup>アクアバイオ学科  
<sup>3</sup>教職課程 )

**P-38b**

**視覚的シンボルの意味理解に関する検討**

森本文人

(仁愛大学人間学部)

**P-39a**

**就床前の気分と夢の生成過程 一事象関連電位を用いた検討-**

○瀬戸奏音 小川景子

(<sup>1</sup>広島大学総合科学研究科)

5月26日(土)

9:45~11:45

**P-40b**

**柑橘系の香りの定期的な使用が注意機能を向上させる**

○後藤広太郎<sup>1</sup> 東村賢人<sup>2</sup> 小林 寛<sup>2</sup> 石垣宝乃果<sup>2</sup> 戸枝一喜<sup>3</sup>

(東京農業大学生物産業学部; <sup>1</sup>教職課程 <sup>2</sup>アクアバイオ学科

<sup>3</sup>食香粧化学科)

**P-41a**

**安静条件から課題条件への移行時に生起する事象関連電位**

○加藤美幸 柏原志保 宮谷真人

(広島大学教育学研究科)

**P-42b**

**顔画像の不一致の程度とN250r成分の検討**

○山田悠介 小川景子

(広島大学大学院総合科学研究科)

5月27日(日)

13:15~15:15

5月27日(日) 13:15~15:15

P-43c

**連続血圧のポアンカレプロット解析**

○黒坂知絵 倉岡宏幸 三宅晋司

(産業医科大学産業保健学部)

P-44d

**画像の鮮明性が感情知覚に及ぼす影響 –事象関連電位の初期成分に着目した検討–**

○黒原玄弥 小川景子

(広島大学大学院総合科学研究科)

P-45c

**炭酸飲料の香りによる生理心理的効果の検証**

○甲斐俊幸<sup>1</sup> 佐藤弘明<sup>1</sup> 矢田幸博<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>アサヒ飲料株式会社 商品開発研究所)

(<sup>2</sup>筑波大学大学院グローバル教育院)

P-46d

**ラットにおける恐怖条件づけの消去に及ぼす MK-801・D-cycloserine 投与の影響 –ストレスレジリエンスの違いによる比較–**

○上野将玄<sup>1,2</sup> 山田一夫<sup>3</sup> 一谷幸男<sup>3</sup>

(<sup>1</sup>筑波大学人間総合科学研究科)(<sup>2</sup>日本学術振興会特別研究員)

(<sup>3</sup>筑波大学人間系)

P-47c

**剣道競技場面における注意の変化と瞬目・心拍変動との関係**

○大東実里<sup>1</sup> 星野聡子<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>奈良女子大学大学院人間文化研究科)

(<sup>2</sup>奈良女子大学生生活環境学部心身健康学科)

5月27日(日)

13:15~15:15

**P-48d**

**睡眠時の自律神経活動と脳波が自覚的な睡眠感や疲労感に及ぼす影響**

○市場智久<sup>1</sup> 赤尾旭彦<sup>2</sup> 立山宗径<sup>2</sup> 小谷 潔<sup>3</sup>

(<sup>1</sup>花王株式会社) (<sup>2</sup>東京大学大学院工学研究科)

(<sup>3</sup>東京大学先端科学技術研究センター)

**P-49c**

**異性の身体的魅力はそれが課題無関連情報でも注意を惹きつける**

○伏田幸平<sup>1,2</sup> 片山順一<sup>2,3</sup>

(<sup>1</sup>関西学院大学 大学院文学研究科) (<sup>2</sup>同 応用心理科学研究センター)

(<sup>3</sup>同 文学部)

**P-50d**

**質問文の具体性が CIT の生理反応に及ぼす効果**

○大浜強志<sup>1</sup> 田代 勉<sup>2</sup> 小野修一<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>山口県警察本部科学捜査研究所) (<sup>2</sup>鹿児島県警察本部科学捜査研究所)

**P-51c**

**事象関連電位を用いた自閉スペクトラム症児の局所優位の視覚情報処理過程 —注意の向け方の影響—**

○大井亜由美<sup>1</sup> 岡崎慎治<sup>2</sup> 大六一志<sup>3</sup>

(<sup>1</sup>筑波大学大学院) (<sup>2</sup>筑波大学人間系)

(<sup>3</sup>NPO 法人 LD・Dyslexia センター)

**P-52d**

**驚愕時の顔面部皮膚電気活動と皮膚血流量変化**

○廣田昭久<sup>1</sup> 小川時洋<sup>2</sup> 松田いづみ<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>鎌倉女子大学児童学部) (<sup>2</sup>科学警察研究所情報科学第一研究室)

5月27日(日)

13:15~15:15

**P-53c**

**受容手がかりに対する注意配分と回復に関する検討**

○伊崎 翼 小川景子

(広島大学大学院総合科学研究科)

**P-54d**

**聴覚刺激の同時呈示が視覚刺激の記憶処理過程に及ぼす効果 —事象関連電位を用いた検討—**

○江口愛実 小川景子

(広島大学大学院総合科学研究科)

**P-55c**

**注視距離が直接対光反応に与える影響**

○木村友洋 早見武人

(岡山大学大学院自然科学研究科)

**P-56d**

**内受容感覚が感情認識に与える影響 -心拍誘発電位を用いた検討-**

○田仲祐登<sup>1</sup> 伊藤友一<sup>2,3</sup> 柴田みどり<sup>4</sup> 寺澤悠理<sup>2</sup> 梅田 聡<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>慶應義塾大学社会学研究科) (<sup>2</sup>慶應義塾大学文学部)

(<sup>3</sup>日本学術振興会特別研究員) (<sup>4</sup>慶應義塾大学先導研究センター)

**P-57c**

**喜びは上、悲しみは下 上下方向による顔表情の分類における事象関連電位**

○大隅尚広 米田恵子 河野稔明

(国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所)

5月27日(日)

13:15~15:15

**P-58d**

**断眠が計算課題時のアンカリング効果に与える影響**

○浅岡章一<sup>1,2</sup> 伊藤美佳<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>江戸川大学社会学部人間心理学科) (<sup>2</sup>江戸川大学睡眠研究所)

**P-59c**

**脳波バイオフィードバックに関する実験的検討(4) — 高域α波増強訓練が認知機能に及ぼす影響についての予備的検討 —**

佐藤俊彦

(長野大学社会福祉学部)

**P-60d**

**fMRI 制限ソース分析による SPN 前期成分と後期成分の発生源の同定**

○大上淑美<sup>1</sup> 小谷泰則<sup>1</sup> 吉田宜清<sup>2</sup> 國松 聡<sup>2</sup> 桐生 茂<sup>3</sup>

井上優介<sup>4</sup>

(<sup>1</sup>東京工業大学リベラルアーツ研究教育院) (<sup>2</sup>東京大学医科学研究所)

(<sup>3</sup>国際医療福祉大学医学部) (<sup>4</sup>北里大学医学部)

**P-61c**

**条件反応の獲得とその評価 —複合反応か全体反応か—**

○沼田恵太郎<sup>1</sup> 宮田 洋<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>大阪成蹊短期大学幼児教育学科) (<sup>2</sup>関西学院大学名誉教授)

**P-62d**

**感情喚起下における前頭αパワー左右差と心拍数の同調**

○真田原行<sup>1,2</sup> 小林正法<sup>1,2</sup> 大竹恵子<sup>2,3</sup> 片山順一<sup>2,3</sup>

(<sup>1</sup>関西学院大学大学院文学研究科) (<sup>2</sup>同 応用心理科学研究センター)

(<sup>3</sup>同 文学部)

5月27日(日)

13:15~15:15

**P-63c**

**自己関連文に対する嘘の「はい」または嘘の「いいえ」を構成する過程の検討**

○江川小咲<sup>1</sup> 木村 司<sup>1</sup> 片山順一<sup>2</sup>

(<sup>1</sup> 関西学院大学大学院文学研究科) (<sup>2</sup> 関西学院大学文学部)

**P-64d**

**垂直方向のサッカーボールにおける加速段階と減速段階の比較**

○早見武人<sup>1</sup> 松尾太加志<sup>2</sup> 福田恭介<sup>3</sup> 志堂寺和則<sup>4</sup>

(<sup>1</sup> 岡山大学) (<sup>2</sup> 北九州市立大学) (<sup>3</sup> 福岡県立大学) (<sup>4</sup> 九州大学)

**P-65c**

**P300 による運動パフォーマンス向上の予測**

○松橋拓努<sup>1</sup> 正木宏明<sup>2</sup>

(<sup>1</sup> 早稲田大学大学院スポーツ科学研究科)

(<sup>2</sup> 早稲田大学スポーツ科学学術院)

**P-66d**

**読書によって高められた共感は表情への注意を増大する**

○片山夏果<sup>1</sup> 真田原行<sup>1,2</sup> 片山順一<sup>2,3</sup>

(<sup>1</sup> 関西学院大学 大学院文学研究科) (<sup>2</sup> 同 CAPS) (<sup>3</sup> 同 文学部)

**P-67c**

**雑音が課題遂行中の脳活動に及ぼす影響**

○田原 敬<sup>1</sup> 吉松美穂<sup>1</sup> 久保愛恵<sup>2</sup> 勝二博亮<sup>1</sup>

(<sup>1</sup> 茨城大学教育学部) (<sup>2</sup> 筑波大学大学院人間総合科学研究科)

**P-68d**

**動詞文課題における動詞の理解度が N400 に及ぼす影響**

○中江光貴<sup>1</sup> 宮地弘一郎<sup>2</sup>

(<sup>1</sup> 信州大学教育学研究科) (<sup>2</sup> 信州大学学術研究院)

5月27日(日)

13:15~15:15

**P-69c**

**利得と損失のフレーミングは随伴性学習を促すか**

山川香織

(東海学園大学心理学部)

**P-70d**

**自然体験活動における危険予測に関する指導者の視線移動特徴**

○岡本尚子<sup>1</sup> 黒田恭史<sup>2</sup> 西村彩夏<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>立命館大学産業社会学部) (<sup>2</sup>京都教育大学教育学部)

**P-71c**

**手指運動のモデル提示様式が前頭θ活動に及ぼす効果**

○柳田裕一朗<sup>1</sup> 正木宏明<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>早稲田大学大学院スポーツ科学研究科)

(<sup>2</sup>早稲田大学スポーツ科学学術院)

**P-72d**

**関係の維持・解消が認知的制御に与える影響**

○廣元未希<sup>1</sup> 小川景子<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>広島大学総合科学部) (<sup>2</sup>広島大学大学院総合科学研究科)

**P-73c**

**隠匿情報検査における規準化脈波容積の周波数解析**

○小川時洋<sup>1</sup> 廣田昭久<sup>2</sup> 松田いづみ<sup>1</sup> 常岡充子<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>科学警察研究所情報科学第一研究室) (<sup>2</sup>鎌倉女子大学児童学部)

**P-74d**

**瞳孔径計測によるマインドワンダリング状態のリアルタイム推定**

○木原 健 武田裕司

(産業技術総合研究所自動車ヒューマンファクター研究センター)

5月27日(日)

13:15~15:15

**P-75c**

**13 歳児における Go/NoGo 課題時の ERP と親および児の属性との関連について**

○山崎圭子 岸 玲子

(北海道大学環境健康科学研究教育センター)

**P-76d**

**時間文脈に基づく予測は行動結果の評価的処理を調節する -事象関連脳電位を用いた検討-**

○木村健太 木村元洋

(産業技術総合研究所自動車ヒューマンファクター研究センター)

**P-77c**

**Polysomnographic study of sleep in children and adolescents with developmental disabilities: A review (1)**

Masamitsu SHIBAGAKI

(Kansai University of International Studies)

**P-78d**

**系列順序情報保持に関わる脳活動の計測**

○肥後克己<sup>1</sup> 岡本尚子<sup>2</sup> 苧阪満里子<sup>3</sup>

(<sup>1</sup>立命館大学立命館グローバル・イノベーション研究機構)

(<sup>2</sup>立命館大学産業社会学部)

(<sup>3</sup>情報通信研究機構脳情報通信融合研究センター)

**P-79c**

**NIRS からみた二者択一の選好判断に関わる脳活動**

○関口貴之<sup>1</sup> 勝二博亮<sup>2</sup> 田原 敬<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>茨城大学大学院教育学研究科) (<sup>2</sup>茨城大学教育学部)

5月27日(日)

13:15~15:15

**P-80d**

**行動結果の評価は刺激価との組み合わせで変容する**

○石井主税<sup>1</sup> 片山順一<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>関西学院大学大学院文学研究科) (<sup>2</sup>関西学院大学文学部)

**P-81c**

**疼痛を持つ高齢者を対象にした三か月間の健康増進教室の効果 — 肩の筋  
硬度計測による評価 —**

○内田誠也<sup>1</sup> 山岡 淳<sup>1,2</sup>

(<sup>1</sup>MOA健康科学センター) (<sup>2</sup>日本大学)

**P-82d**

**運動学習成立レベルと腹外側前頭前野活動の関連について — 利き手と非利  
き手における比較検討 —**

○宇野英樹<sup>1</sup> 小林 寛<sup>2</sup> 桑垣彩乃<sup>2</sup> 石垣宝乃果<sup>2</sup> 後藤広太郎<sup>2</sup>  
室橋春光<sup>3</sup>

(<sup>1</sup>北星学園大学社会福祉学部) (<sup>2</sup>東京農業大学教職課程)

(<sup>3</sup>札幌学院大学人文学部)

**P-83c**

**共謀罪の成立に伴う、CITを用いた計画群の検出**

○李 韓碩<sup>1</sup> 中山 誠<sup>2</sup>

(<sup>1</sup>関西国際大学大学院人間行動学研究科) (<sup>2</sup>関西国際大学人間科学部)

**P-84d**

**交通事故遷延性意識障害の回復過程と McT 療法の心理生理学的分析  
HRV-1/f ゆらぎ解析バランス指数評価**

後藤幸生

(国際医学技術専門学校)

5月27日(日)

13:15~15:15

**P-85c**

**自身と子供の行為結果に対する母親のフィードバックエラー関連陰性電位**

○川本大史<sup>1</sup> 吉本廣雅<sup>1</sup> Maryam Alimardani<sup>2</sup> 正岡汐里<sup>1</sup> 開 一夫<sup>1</sup>

(<sup>1</sup> 東京大学大学院総合文化研究科) (<sup>2</sup> Tilburg University)

## 第 36 回日本生理心理学会大会準備委員会

委員長（大会長）	福田 恭介	福岡県立大学人間社会学部
副委員長	松尾 太加志	北九州市立大学 学長
事務局長	麦島 剛	福岡県立大学人間社会学部
副事務局長	小山 憲一郎	福岡県立大学人間社会学部

協賛：北九州市、（公財）北九州観光コンベンション協会

### 大会事務局連絡先

〒825-8585

福岡県田川市伊田 4395 福岡県立大学人間社会学部内  
第 36 回日本生理心理学会大会準備委員会

E-mail : [jspp2018@fukuoka-pu.ac.jp](mailto:jspp2018@fukuoka-pu.ac.jp)

URL : <http://www.fukuoka-pu.ac.jp/~jspp2018/>